

いのち、 痛みにも全力

第29号

福岡和白病院

HNVC
Heart & Neuro-Vascular Center
心臓・脳・血管
高度治療部

CONTENTS

- 2・3 【特集】HNVC開設(齋藤統括副院長)
岡崎、原田、落合各医師の話
- 4・5 HNVC施設・組織図の紹介
- 6 ER副部長 白馬 雄士先生ERから
西田院長の著書
- 7 よみうり健康講座
あなたの血管は大丈夫?
- 8 あたまの体操

特集 HNVC開設



高齢化やライフスタイルの欧米化、そして糖尿病人口の増加とともに生活習慣病としての動脈硬化性疾患が増えています。そこで、社会医療法人財団 池友会「福岡和白病院」では今秋、血管に関する病気を総合的に診療・治療する「HNVC(心臓・脳・血管センター)」を開設しました。心臓だけ、あるいは脳だけを診ていては血管に異常をきたした患者さんの他の異常を見逃しかねません。当院は循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、放射線科がタッグを組み、心血管病全体に対応すべく、新しい体制のもとチーム医療を展開します。

統括副院長(循環器内科)

齋藤 太郎先生

「血管病」は耳新しい病名ですが、心筋梗塞や狭心症、脳梗塞や脳出血、くも膜下出血(動脈瘤破裂)など、全身のさまざまな臓器で起きる動脈硬化性疾患を総称して言います。診療は一般的に、心臓は循環器、脳は脳外科などそれぞれ専門の診療科で行っていますが、血管病は心臓、脳、大動脈、末梢神経に重複して起こり、長年にわたって進行する疾患という特徴があります。さらに自覚症状がないまま動脈硬化が進み、突然発作に襲われ重大症状が表れるというサイレントキラーの特性を持っています。

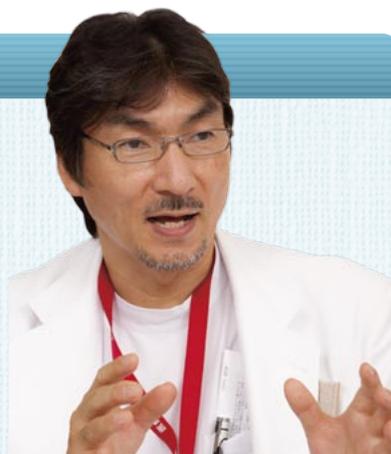
病変を個々の臓器だけ、またある時点だけをとらえて診療していると、別の臓器の病気や将来起きる可能性がある病気を見逃す恐れがあります。「心臓・脳・血管高度治療部」(HNVC=心臓・脳・血管センター)では、心臓を含めた血管系全体を一つの臓器としてとらえ、血管病は全身病という共通概念の基で、循環器内科、心臓血管外科、脳血管外科、血管放射線科が従来の枠を越えて総合的

に動脈病変の診察と治療を行います。さらに動脈病変は、糖尿病(高血糖)や高血圧、高脂血症、メタボリックシンドロームなど生活習慣病、喫煙、遺伝などがリスクファクター(危険因子)として関係しており、四つの診療科が血管病のデータベースを共有し、他の臓器の血管も評価しながら、これらに対する内科的治療や健康指導にもアプローチします。

日本人の死因は、悪性新生物が最も多く、2位は心疾患、3位は脳血管疾患と続き、寝たきりになる原因としては脳血管疾患が1位です。心臓や脳に起きる虚血性の疾患は、死に至る危険を伴い、死を免れても後遺症が残ったり、再発を繰り返したりします。チーム診療により、外来のほかドクターカーや救急ヘリによる急患の対応も行い、予防を含めて血管病をトータルに診断・治療・指導し、早期リハビリとも連携して患者様のQOL(生活の質)向上、最期まで元気に暮らせる健康長寿の実現に貢献する地域医療を目指します。

HNVCセンター長兼心臓血管外科部長 岡崎 幸生先生

血管病が全身の病気というのは明らかです。HNVCでは、どの臓器の治療を優先すべきか、またカテーテル治療が適切であるか、外科的手術が適切であるかなどを、チームでそれぞれ専門の立場から検討し合議のうえで最適の治療法を選択します。外科的に大きく切開しない治療法も進んでおり、高齢化で手術に耐えられない患者様も増える中、心臓に加え頸動脈や脳血管、下肢の動脈閉塞に対するカテーテル治療など、負担が少ない低侵襲治療を充実させます。



脳血管外科部長 原田 啓先生

脳梗塞で入院される患者様の30~40%は、心臓を栄養する冠動脈にも異常をきたしています。また、心臓でできた血栓が運ばれて脳動脈が詰まる「心原性脳梗塞」も中高年を中心に多く見られます。心臓の状態をあわせて診るべきなのですが、調べているのは一般的に半数以下というのが日本の診療の実際です。HNVCでは、このように脳と心臓、血管が合併した症状を、各診療科の医師がタッグを組んで診療することで、治療成績の向上につなげます。



放射線診断治療センター長 落合 礼次先生

画像診断では、依頼されたもの以外の病変をとらえることがあります。このような副次的な内容は、縦割りで連携がうまく取れていない診療体制下では、十分に伝わらないケースもありがちです。HNVCでは、各診療科が一体となることにより、こうした情報が適切につながり、患者様にとって診療の幅が広がります。腹部の動脈瘤や出血に対する措置など、放射線科で対応できる治療にも積極的に参加し、血管病診療チームのレベルアップに貢献します。



HNVC施設・組織図の紹介

HNVC施設



第4血管造影室



第3MRI



庭園



4階 ホール



4階 病室



CCU(Coronary Care Unit:冠状動脈疾患管理室)



透析室(改築)



リハビリテーション室(改築)



CCU病室



デイルーム

HNVC組織図



ER副部長 白馬 雄士先生ERから



私は、平成14年に佐賀医科大学を卒業し、佐賀医科大学 胸部外科(心臓血管外科、呼吸器外科)に入局しました。当和白病院院長 伊藤 翼先生が当時教授に就かれていました。その時の伊藤先生の方針の一つが「救急は断るな」というものでした。その教えの下、7年間、胸部外科を中心に外科、麻酔科、救急科で修練しています。

平成20年、和白病院の心臓血管外科に赴任し、平成21年からはER専属となっています。当院の救急部では歩いて受診される方から救急車まで、軽症から最重症まで、急を要すると思われる方はすべて診察しています。そのため重症の方ばかりが受診される救命センターとは違い、我々自身でまず診断し、治療を開始しなければなりません。

その中でも、特に力を入れているのが心臓血管救急です。心臓病、血管病を見逃さないのは当然として、いかに早く診断し迅速に治療を開始するかが大事です。例えば急性心筋梗塞では、詰まった血管を1分でも早く治療し血流を回復することで心臓のダメージを少なくすることができ、その後のQOLの向上が望めます。

同じ事は脳梗塞でも言えます。脳梗塞では早期に診断し、血栓溶解療法やカテーテル治療を行うことで後遺症を軽くすることが望めます。

この度、当院にHNVCが設立されました。心臓、脳、血管に対し専門的なバックアップがあるのは、救急医にとって大きな強みです。この強みを活かし、より良い地域医療、救急医療を提供できる様にします。



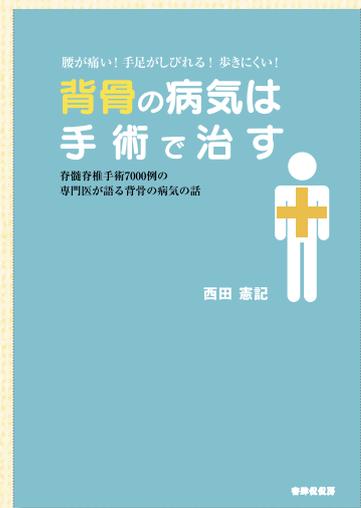
HNVCは、ドクターカー・ホワイトバード等の救急搬送機能の充分な利用と救命救急チームとの密なる連携により救急医療の充実につめていきます

西田院長の著書 近日発売

新武雄病院の西田 憲記院長(53)が11月中旬、「背骨の病気は手術で治す」というタイトルの本を出版する。西田院長は高知県土佐足摺岬出身。新小文字病院の前院長であり、現脊髄脊椎治療センター長。そして史上初の公的病院民間譲渡で揺れた新武雄病院(旧武雄市民病院)の移転でも陣頭指揮を取った。

西田院長は日本で最初の脊髄脊椎外科を立ち上げた専門医である。手術数7,000例を数え、今回出版した本では、その症例と内容を分かりやすく解説している。

「われわれ専門医は切らずに治すことを常に心がけています。しかし、神経の病気は切らなければ取り返しのつかないことになるのも事実です。中枢神経は一度損傷すると二度と回復しません。だから少しでも早く専門医を訪ねてほしい」と西田院長。税込1,500円。



よみうり健康講座 あなたの血管は大丈夫？

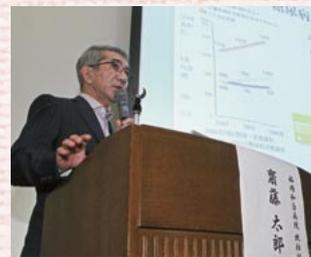
福岡和白病院の医師が講師を務める「読売新聞健康講座」は、その第1回が11月3日の文化の日、福岡市中央区赤坂の読売新聞西部本社1階ホール「よみうりプラザ」で始まった。

この健康講座は福岡和白病院の「HNVC」(心臓・脳・血管センター)開設に伴い、「あなたの血管は大丈夫？」というテーマで毎月開き、全12回を予定している。講師は各回とも福岡和白病院の医師。

初回は齋藤 太郎統括副院長が「血管病ってなんだろう？」のタイトルで、「血管の病気は全身の病気。心臓を含め、血管全体を一つの臓器ととらえ、治療していくことが大切」と訴えた。

受講料は無料。1回だけの受講もできる。次回は12月3日午後1時半から同プラザで、循環器内科の比嘉 徹主任部長が「血管病を防ぐ生活習慣」のテーマで話す。

心臓や脳などの血管病で亡くなる日本人は年間約30万人。死亡率は「がん」にも匹敵します。血管の老化を防ぎ、健康な血液の流れを保つための、とっておきの秘訣を12回の講演会でわかりやすく説明していきます。



第2回テーマ 「血管病を防ぐ生活習慣」

講師 福岡和白病院 比嘉 徹(循環器内科主任部長)

日時 平成23年12月3日(土)午後1時30分～(開場・午後1時)

※第3回以降は、読売新聞紙上で随時発表します。

会場 よみうりプラザ(福岡市中央区赤坂1 読売新聞西部本社1階) ※福岡市営地下鉄赤坂駅徒歩2分

申し込み 〒、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、参加希望人数、同行者氏名、よみうり健康講座希望と明記し、

〒810-8581 住所不要 読売新聞西部本社広告局「よみうり健康講座・血管病」係へはがきか

FAX(092-715-5829)で。本社サイト ヨミウリオンライン九州発からも申込可。

問い合わせは(092-715-5842 平日午前10時～午後5時)。定員100名。締切は11月25日(金)。

応募多数の場合は、当選者に聴講券を発送します。

主催 読売新聞西部本社

協力 福岡和白病院

講座監修 同 齋藤 太郎(統括副院長、HNVC顧問)

■「よみうり健康講座 あなたの血管は大丈夫？」年間テーマ案

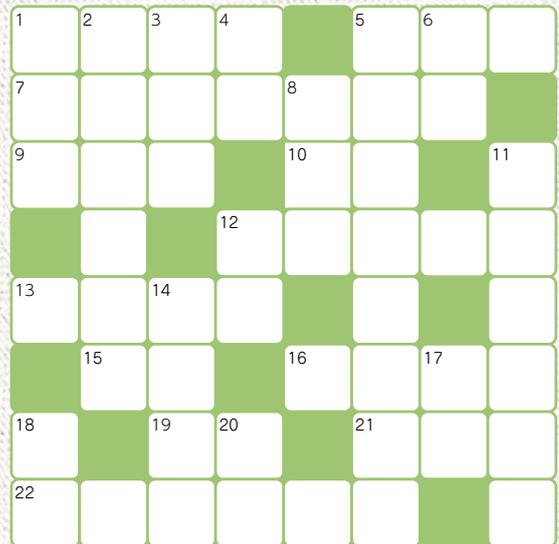
第2回	血管病を防ぐ生活習慣 ～毎日の暮らしをチェックしよう～ 平成23年12月3日(土) 比嘉 徹(循環器内科主任部長)	第8回	大動脈に起こる血管病 ～大動脈瘤破裂は命にかかわる～ 平成24年6月 岡崎 幸生(心臓・脳・血管センター長、心臓血管外科部長)
第3回	心臓と血管病Ⅰ ～カテーテルを使った治療と成績～ 平成24年1月7日(土) 大塚 頼隆(循環器内科部長、CCU室長)	第9回	末梢血管に起こる血管病 ～閉塞性動脈硬化症・下肢静脈瘤～ 平成24年7月 樋口 真哉(心臓血管外科医院長) 伊元 裕樹(循環器内科医師)
第4回	心臓と血管病Ⅱ ～より患者に優しい外科的治療法～ 平成24年2月 岡崎 幸生(心臓・脳・血管センター長、心臓血管外科部長)	第10回	脳卒中と血管病Ⅰ 平成24年8月 福山 幸三(脳神経センター長)
第5回	不整脈も要注意 ～不整脈と血管病～ 平成24年3月 野口 博生(循環器内科部長)	第11回	脳卒中と血管病Ⅱ ～カテーテルを使った治療と成績～ 平成24年9月 原田 啓(脳血管外科部長)
第6回	放射線を使った血管病の診断法 平成24年4月 落合 礼次(放射線診断・治療センター長)	第12回	心臓・脳・血管センターの役割 ～皆さんの健康を守るために～ 平成24年9月 齋藤 太郎(統括副院長、HNVC顧問) 岡崎 幸生(心臓・脳・血管センター長、心臓血管外科部長)
第7回	糖尿病は諸悪の根源 ～腎臓病・血管病とのかかわり～ 平成24年5月 齋藤 太郎(統括副院長、HNVC顧問)		

タテのカギ

1. 野球で、一塁・二塁・三塁・本塁を結ぶ直線で囲まれた四角形の区域
2. 定位放射線治療を行う放射線照射装置である○○○○○○は、1995年に九州で初めて当院に導入され、治療総数は約6,000件に到達し有効な治療成績を得ています。10月末～12月始めにかけては新装置導入のために休診になります。
3. 今年のプロ野球は地元○○○バンクホークスがパリーグ優勝
4. ○○杭は打たれる
5. P2～3の特集ページにも記載されている「血管病」の一つ。虚血性心疾患の中で、心臓が栄養としている冠動脈の血流量が下がり、心筋が虚血状態になり壊死してしまった状態。
6. 相撲・柔道などで、相手を負かすために仕掛ける一定の型に基づいた動作。「一がきまる」「寝一」
8. 美顔術・メイクアップ・脱毛・痩身(そうしん)法などによって美しくすること。全身美容。
11. フォトフレームのこと
12. MRI(○○共鳴画像装置)は、○○を利用して体内を縦横に撮影できる医療機器であり、HNVCの1階に3台目の機器が増設された。
14. 色気があることを表す形容詞
17. 何かに使用する、形のあるもの。商品。「○○ぞろえ」「○○定め」
18. 利用価値のないこまごました汚いもの。ちり。あくた。塵芥。○○を分別するのは当たり前の時代になりました。
20. 建物と建物との間の狭い道

ヨコのカギ

1. 季節が変わり寒くなってきたので○○○○の服に衣替え
5. 陰暦12月の異称。
7. ○○○○○○○の予防接種の時期になりました。ご希望の方は当院1Fで予約を受け付けています。
9. 日本の異称。「○○○魂」「○○○撫子」
10. 心がひかれること。気に入ること。⇔嫌い
12. エコの観点からも、車ではなく○○○○○を通勤などに利用する人が増えてきました。11月20日にはアイランドシティを中心にツールド・フクオカというイベントも行われます。
13. 逃げる者のあとを追いかけること。物事の経過をたどって調べること。
15. 今年は芦田愛菜ちゃんや鈴木○○くんなどの子役が大人気でした
16. 9月に当院のホームページが○○○○されました。是非、ご覧下さい。
19. 敵に攻め込まれた際の防衛拠点として設けられた構造物
21. 韓流ブームの先駆けはこれでした「冬の○○○」
22. 音楽のこと



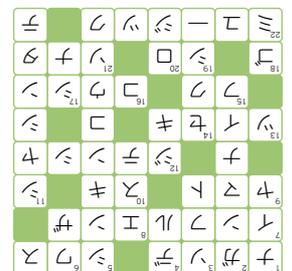
解答はページ下段に掲載しています。

基本理念

手には**技術**、
頭には**知識**、
患者様には**愛**を

基本方針

1. 高度医療 学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備整備の拡充に努めます。
2. チーム医療 患者様の目線に立った安全で安心できるチーム医療を提供すべく、急性期医療から、早期リハビリ、退院支援までニーズに沿った医療を提供します。
3. 地域医療 いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域の中核病院を目指し、地域の医療・福祉施設と密接な連携を推進します。



とよのこーとろく

病院機能評価認定 臨床研修病院



社会医療法人財団 池友会

福岡和白病院

〒811-0213 福岡市東区和白丘2丁目2-75

TEL.092-608-0001

E-mail: info@f-wajirohp.jp http://www.f-wajirohp.jp